

「いじめ、虐待、そして愛着」

～いじめ、虐待のない社会をめざして～

講師：白百合女子大学名誉教授 元国大助教授 繁多 進先生

日時：平成 26 年 3 月 1 日（土） 2：00～4：00

会場：横浜教育サポートフォーラム事務所

現在、社会にもっとも関心のあることの一つとして、いじめや虐待があげられています。今回おひさまの会では、心理士としても長いことご活躍されている繁多先生から、ご自身の豊富な体験・研究を通して「いじめっ子の心理と虐待する親」「地域社会の教育力」等々、興味深いお話を、具体的事例をもとにたくさん伺えました。

いじめっ子にもいじめられっ子にもならない子どもは、自己肯定感をもっており、周囲の人たちに対して信頼感をもち、自分の人生に生きる価値を見出すことが出来ます。

また、「愛着」が「いじめ」にも「虐待」にも大きく関連していることを知りました。

「愛着」とは「愛情と信頼をともなった心の絆」であり、その子ども・人の人格形成に大きくかかわってきます。健全な愛着をもたらされた子どもは自己肯定感をもち、生きる価値を見出せるけれども、愛着不全の子どもは、様々な発達が妨げられるそうです。

健全な愛着を育てる要因の中でも、印象に残ったことは「子どもの心を知ること：すべての愛は知ることから始まる。」「よい母親は子どもの感情を知ろうとしている。」です。

今、子育てをしているお母さんをどのように支援してあげることが、地域社会の大きな課題になっています。



私たちが先ず出来ることは、「近隣の子どもに愛着をもって接すること」「育児困難な母親に優しい目を向けること」「電車の中で出会った赤ちゃんに『かわいいね』と言ってあげること」でしょうか。

繁多先生 ありがとうございました。

参加者の感想

○具体的なお話が多くとてもよく分かる講演でした。私の職場の子どもや保護者の顔がたくさん浮かんできました。どれだけ多くの子どもたちやお家の方が安心感をもっていただけるか振り返ることが出来ました。参加できて本当に良かったです。



○大変感銘を受けました。母として我が子が誕生のころを振り返ることも出来、成人してしまった我が子にもう一度愛情を伝えようと思いました。学校の立場として「母親の子育て支援」の機能をもたなければいけないと常々感じておりましたが、その思いを更に強くしました。学校で教師が子どもに愛情を示すことの大切さを改めて感じました。学校運営に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

○とても参考になりました。「子どもの心にダメージを与えない叱り方」集団の中で先生が怒るといじめられていくなど、気をつけていきたいことが沢山ありました。本校でも「自分の気持ちを相手に伝えよう」をテーマに学校で取り組んでいます。

○改めて子どものこと、母としてのこと、社会のこと（自分自身を振り返りながら）考えさせられる。果たして自分に何が出来るのか、それをもちながら、今年度は大学等で学ぼうと思います。

○いじめっ子のタイプ、いじめられっ子のタイプ共に心が痛みました。そして、今までテレビで見るたび、子どもがかわいそうで仕方がなかった虐待……。どちらもこれまでとらえていたよりずっと我が家に近いものであると知り、ショックです。母として近所のおばさんとして、人間として、常に愛情をもって生きていきたいと思います。本当にありがとうございます。

○繁多先生の愛あるお話に感銘を受けました。常にアンテナを立てて自分の子どもまた他者に対して心の声に耳を傾け、自分でできる愛ある行動を続ける、伝えることが微力ではありますが、すべてのことに繋がっていくことを信じてまいりたいと思います。

○先生からいろいろな事例をお聞きし、親の関わりが子どもの成長に大きな影響を及ぼすことを改めて感じ、身の引き締まる思いがしました。参加者は会場いっぱいでしたが、小さな会場でしたので、講師の先生を囲んでお話を聞く会になり、質問もしやすく温かい雰囲気での会でした。繁多先生のお話をまたお聞きしたいです。

(記録 伊藤)